

# 障害者の生きる姿みてほしい

社会に放り出された障害者はどう生きていくのか。17日から公開される映画「39窃盗団」はコメディ―仕立てでこのテーマを描いています。押田興将監督はダウン症のある実弟を主人公に起用しました。思いを聞きました。

(隅田哲)



おしだ・こうすけ 69年生まれ。今村昌平監督の助監督を務め、プロデューサーとして「夢売るふたり」(西川美和監督)などを手掛ける。劇映画の監督は今回初。ドキュメンタリー監督作品に「チャレンジド」など。



「39窃盗団」のキョウタカ(中央)とヒロシ(左)

理解されずに殴られたうえ解雇されるヒロシ。義父に売春をさせられている幼なじみ。それでも兄弟たちは力を合わせて生き抜こうとします。

「彼らが現実には直面している状況から社会のあり方を考えることが必要です。あわせて、そういう状況でたくましく生きる姿を見てほしい。腹が減ったら飯を食うし、寒かったら温かい場所を探します。主人公たちを単純に不幸といってしまうのでしょか。社会のあり方としては足一本なくなっても生きていける環境をめざす。個人としては足一本なくなっても不幸と定

義せず、幸せを探すタフさが必要なのではないか」

## 誰かが声を

夢のような場面があります。兄弟たちが手に入れた畑に、鍬を入れて花が植えられるよう手助けするおじさんが出てきます。相撲をとって喜びあう兄弟。彼らが安心して暮らす居場所づくりの大切さを訴えるような場面です。

「こういうおじさんがいるだけで彼らの人生は変わってきます。障害者に限らず人間はつながり合っている場所の方が生きやすいはず。障害者が起こした事件が報道されます。でもその前

に、だれかが声をかけていたら起きていなかったかもしれない。互いのコミュニケーションが大切だと思えてなりません」

今回、自主製作のため低予算での撮影でした。これに俳優のベンガルさん、音楽の大友良英さんをはじめ出演者やスタッフが手弁当で協力しています。

「自主製作だからこそ今回の映画は撮れました。多くの方が私たち兄弟を支えてくれました。協力してくださったみなさんに感謝、39(サンキュー)です」

## 映画「39窃盗団」

### 押田興将監督に聞く

映画は、肉親を失った障害の弟ヒロシは刑務所兄弟が主人公です。兄キョウタカはダウン症。発達オレ詐欺リーダーの「助

言「で泥棒の旅に出ますが、失敗ばかりです。キョウタカを演じているのが監督の実弟・清剛さん(35)。ヒロシ役の大きな(37)も実弟です。「弟の清剛は子どものときから笑うとかわいく

### 幸せ探して

詐欺師にだまされて罪を着せられ、財産までとられてしまう兄弟。やっと就いた職場でも障害が

て周囲から愛されていません。このチャーミングな弟を撮りたかったけれど、ドキュメンタリーにする描写きれいなものがある。肩の力を抜いてまるごとキョウタカを撮るためにコメディ―にしま

「39窃盗団」は17日から川崎市アートセンター、東京・新宿Kscinemaで公開。